





私は平成23年4月から砺波総合病院呼吸器科医の常勤医となりました。呼吸器疾患には風邪、肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、睡眠時無呼吸症候群、肺がんなど、多くの疾患があります。常勤医がいることで、今後幅広く専門的な検査、治療を当院で行うことができるようになりました。

# はじめまして、呼吸器科医について 砺波総合病院にやってきました

## 咳(せき)のお話

### 砺波総合病院から

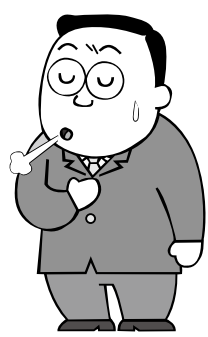



呼吸器科 小島好司

市立砺波総合病院 ☎32-3320  
ホームページ <http://www.city.tonami.toyama.jp/tgh/>

### 多くの患者さんの悩み、それは咳(せき)

さて、外来診療を行っているところの初診患者さんが咳を気にされて受診されます。そこで、今回は咳について少しお話をさせていただきます。そもそも咳とは、気道内に入ってきた異物を排除する働きをもった重要な生体防御機構なのです。ここでいう異物とはウイルスや細菌といった感染症のもとや、感染症時にみられる喀痰(たん)、感染症でなくとも喫煙者にもみられる喀痰、そもそもの喫煙による吸入される有害物質、花粉、排気ガス、粉じんなどがこれに該当します。そのため、ただ咳を止めればよい問題かというところ、そうではありません。咳がなぜ起こっているのか、原因を突き止めた後、その原因に対して治療を行わなくてはならないのです。禁煙するだけで咳が止まったという患者さんは多くいらっしゃいます。喫煙者の方にはまず禁煙をしましょう。禁煙してか



ら4週間程度経っても、続けて咳がみられるのであれば、喫煙以外の原因を調べる必要があります。

### 咳の分類

咳は「これだけ続けてみられるか」によって分類されます。

- ▼3週間以内の急性咳
  - 急性咳の多くは、かぜ症候群や急性気管支炎、肺炎といった呼吸器感染症によるものが多いとされ、また胸部レントゲン写真などで異常な陰影がみられ、肺がんや肺炎などと診断される場合もこれに該当します。
- ▼3週間～8週間の遷延性咳
- ▼8週間以上の慢性咳

その一方で遷延性咳や慢性咳は一般検査では診断のつかない原因不明な咳です。

かぜ症候群などがきっかけとなり慢性咳となる患者さんも多いとされます。慢性咳で多くみられる疾患としては、副鼻腔気管支症候群、喘息、およびアトピー咳があります。その他には、就寝時に横になることで胃酸が逆流することで刺激となり咳がみられる胃食道逆流に伴う咳や高血圧に対して処方される降圧剤の一部(ACE阻害薬)による咳、心因性・習慣性咳など、多種にわたり咳の原因

因があります。

これを診断するために、患者さんからお話を伺いながら、咳の原因を絞り込んでいきます。

### 最後に

咳ひとつをとってみても非常に多くの疾患が関係しています。もし止まらない咳でお困りの方がいらつしやいましたら、当科を受診ください。

皆様からより近い存在の呼吸器科医として頑張りたいと思います。今後ともよろしくお願ひします。

## 患者さんへのお願い

- 初めて受診される方で、他の医療機関のお薬を服用されている方は、お薬の説明書をお持ちいただけますようご協力をお願いします。当日の検査や予約を行う際に参考となる大切な情報が書かれています。
- 患者間違いなどによる医療事故の発生を防ぐため、大変恐縮ですが、患者さんには、診療、検査、投薬、注射などの際、「自ら」お名前を名乗っていただくとともに、ご自身による最終確認をしていただくなど、積極的なご協力をお願いします。